

研究結果報告書

本研究の目的は、日韓の島嶼社会における観光開発による観光文化の活用とそのあり方を考察することによって、島嶼文化論を展開し東アジア島嶼部の異文化を相互理解することにある。具体的には、日韓を代表する島嶼社会の沖縄と済州島を取り上げ、人類学的現地調査による比較研究を行い、それぞれの伝統文化がどのように再構築・再創造されるか分析した上で、祭りという伝統行事が観光資源として担う役割の可能性を明らかにする。本研究の結果の要約は、以下のとおりである。

沖縄で行われるハーリーは、約 600 年前に中国から伝わったとされており、爬竜船を漕ぎ競い合い、五穀豊穡、無病息災、航海安全を祈願する琉球王国時代の伝統行事である。ハーリーは歴史的・政治的変動の中で、中断を余儀なくされたが、沖縄の海人(ウミンチュ)文化として、その後も途絶えることなく受け継がれている。

現在沖縄各地の漁港では、サバニと呼ばれる伝統漁船を使ったレースが繰り広げられており、旧暦 5 月 4 日に開催される事が多い。そのなかで、今年第 39 回を迎えた最大規模の那覇ハーリーは、本土復帰後、沖縄海洋博覧会に伴い 1975 年に復活され、毎年 5 月 3 日～5 日の 3 日間行われている。さらに那覇ハーリーは、ゴールデンウィークに開催することによって大衆化し、観光客や外国人でも参加できるイベントとして地域の観光振興に活用している。

一方、済州チルモリダンヨンドウン(霊登)グッ(以下、ヨンドウングッ)は、済州島の小さな漁村である済州市健入洞という村で、村の守護神がいる本郷堂のチルモリダン拝所で行われる堂グッ(村の祭り)である。ヨンドウングッは霊登神に対する済州島の特有の海女信仰と民俗信仰が含まれている祭りである。霊登神は来訪神であり、ヨンドウングッは、陰暦 2 月 1 日に霊登歓迎祭、2 月 14 日に霊登送別祭を行う。ヨンドウングッは、1980 年 11 月 17 日無形文化財第 71 号に指定、2009 年 9 月には世界ユネスコ人類無形文化遺産に登録されることによって、村の祭りの次元を越えて、観光客や外国人が参加し観る祭りへ変化しつつある。

結論的にいえば、沖縄と済州島は、本土と遠く離れている島嶼として、本土の文化とは異なる独特の文化要素を持ち、黒潮文化圏に属する地域である。歴史的に見れば沖縄と済州島は、中・近世の東アジアとの交流において、海上の要衝地であり、海洋ルートによる文化交流の可能性が予想される。さらに海の祭りである那覇のハーリーと済州島のヨンドウングッは、島嶼社会の漁村と村人の豊かさや安全を祈った伝統行事であった。しかし、現代には二つの地域とも、地域文化のグローバル化を強調しつつあるなかで、ローカル文化の村の祭りが地域の重要な観光資源として活用され、島嶼地域の経済的発展や文化的価値を見出していることが明確に現れている。

研究成果の公表について(予定も含む)

口頭発表 (題名・発表者名・会議名・日時・場所等) 予定

題名 : 沖縄・済州島における観光と文化政策－海の祭りを中心に－

発表者名 : 姜京希

会議名 : 済州学研究者会

日時 : 2013 年 10 月

場所 : 財団法人 済州考古学研究所 研究室

論文 (題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等) 予定

題名 : 日韓島嶼社会における観光と文化政策に関する比較研究
－沖縄と済州島の祭りを中心に－

発表者名 : 姜京希

論文掲載誌 : 比較文化研究 (ソウル大学 比較文化研究所)

掲載時期 : 2014年 2月

ISSN : 1226-0568

書籍 (題名・著者名・出版社・発行時期等) 予定

題名 : 沖縄・済州島における観光と文化政策に関する比較研究
－海の祭りを中心に－

著者名 : 姜京希

出版社 : 済州学研究者会(新亜出版社)

発行時期 : 2014年 8月